

『彼のやさしさに』

これはなんの写真に見えますか？想像しながらお付き合いください。

朝、私がいつものように横断歩道に立っていると、数名が下駄箱に行く前に、何やら集まっていました。「何をやっているのかな」と気になり、近寄ってみると、このようなもの。(もしや、何かのお墓?) 尋ねてみると・・・そうでした。

下駄箱まで行く途中にひなが三匹なくなっていて、それをこのようにお墓をしつらえてくれたのでした。「じゃあ、拝みますか」と、私が手を合わせると、そこにいた子どもたちも、神秘的な顔つきで手を合わせました。

中心になってお墓をしつらえてくれた子は、なかなか感情の起伏が大きな子でした、その子のこのような一面に触れ、とても心穏やかな気持ちになりました。生命の尊さや、尊厳をしっかりとわかっている彼のやさしさに触れた一枚です。



こちら、朝のできごとです。横断歩道に立っていると、少し遠くの方から泣き声が聞こえます。3人のうち、どうやら2人が泣いています。

私「どうしたの？」

Aさん「ころんじゃったの」

私「どうして？」

Aさん「Bちゃんが走ったから、私も走ったの、そうしたらころんだ」

私「けがはだいじょうぶ？」

Aさん「だいじょうぶ。だって、もう1つの足があるから」

なるほど。いつもながら、子どもたちの発想はステキです。あんなに大泣きしていたので、さぞかし痛いのかと思ったら、もう1つの足が無事なので大丈夫とのこと。

そして、私とこのような会話をして、満足したのかどうか、すっかり泣き止み、写真のように下駄箱へと消えていきました。

(泣く二人と一緒に来てくれたお友だち、寄り添ってくれてありがとう。いてくれてきつと心強かったと思います。ありがとうね)

